

平成24年度  
沖縄離島体験交流促進事業  
関連新聞記事抜粋

株式会社カルティベイト





パインの収穫を体験する西原南小の児童たち=14日午後、西表島東部のパイランドファーム

# パイン収穫を体験

## 本島の児童ら離島体験

西表島

【西表東部】本島の児童たちに離島のことを理解してもらおう県の離島体験交流促進事業が13日から2泊3日で西表島で始まり、本島から169人の児童が来島。西原南小学校の5年生55人が東部、西原小学校の5年生114人が西部に派遣され、パインの収穫や農業体験、島の子どもの交流など多彩なプログラムを楽しんでいる。

同事業は本島の児童たちに離島への関心を

【西表東部】高めてもらうことに、地域住民や地元小学生との交流を図るのを目的に2011年度からスタートした。本年度は本島25校の58クラス約1898人を14カ所の離島市町村に派遣する。石垣市には7月に南城市の大豆南小学校の5年生136人、与那国町には11月に糸満市の糸満南小学校の5年生70人が派遣される予定。

西原南小は14日、西表島東部のパイランドファームでパインの収

穫体験や施設見学、仲間川でカヌー体験などを楽しんだ。

パインの収穫体験をした関根誠君(5年)は「最初は難しかったけど、上手に刈り取れた時はうれしかった」、上江洲聖瑠さん(同)は「船やバスには酔ったけれど、イリオモテヤマネコや西表島の自然を知ることができた。もう一度来たい」と話していた。

夜は、地元の子どもの会と交流を深めた。

# 伊平屋の自然満喫

## 那覇・城南小児童が民泊体験



芋掘りに夢中になる城南小の児童ら＝7日、伊平屋村前泊

【伊平屋】本島と離島の交流を促進し、離島地域の活性化を目的に行われている「県離島体験交流促進事業」のプログラムで、那覇市立城南小学校の5年生79人が7、8の両日、伊平屋島を訪れ、芋掘り体験や民泊などで伊平屋の自然を満喫した。

村離島振興総合センターで入村式があり、伊礼清副村長は「伊平屋島は自然がいっぱいです。普段皆さんが触れることのできない体験を楽しんで

ください」と歓迎した。児童は芋掘り以外にも林道探検、トレッキング、磯の生き物探索、シーカヤック体験などを楽しんだ。

島の特産品料理が振る舞われた夕食会では、伊平屋の小学生との交流会もあり城南小の児童の学校紹介と寸劇、伊平屋の児童は踊りを披露した。城南小の児童らは口々に「楽しい」「とても良

かった」と離島体験に満ちた様子だった。離村式で5年1組担任の知念澄男教諭は「1日ごろの学校生活にはない生き生きとした表情がとても良かった。いい体験になった」と礼を述べた。島を離れる船上からは色とりどりの紙テープが投げられ、児童らは世話になった民泊先の住民と別れを惜しんだ。

(野甫英芳通信員)

### 保育所民営化の条例改正案可決

北中城村議会

【北中城】北中城村議会(花崎為継議長)は19日の6月定例会最終本会議で、村立屋宜原保育所を社会福祉法人に運営移管する村保育所条例の改正案を8対5の賛成多数で可決した。2013年4月1日の施行だが、審議に時間を要したことな

# 報新古宮

## 池間島、狩俣で自然学ぶ

離島体験  
交流促進

### 東風平小154人が来島

県の2012年度沖縄離島体験交流促進事業で2日、八重瀬町立東風平小学校

(石川宏校長)の5年生154人が宮古入りした。2泊3日の日程で平良の池間

島と狩俣集落で民泊し、自然体験を通して受け入れの住民と交流する。



離島体験交流促進事業で池間島を訪問し入村式に臨む東風平小の5年生＝池間島離島振興総合センター

同事業は、沖縄本島の子どもたちが離島の重要性や特長、魅力について認識を深めるとともに、交流促進を通して離島地域の活性化を図ることを目的としている。沖縄本島の小学5年生、中学1年生を対象に10年度から実施。県は離島地域の文化、環境、産業を生かした新たな体験学習の場構築のほか、子どもたちの人間性や社会性形成、交流促進、離島観光振興への効果に期待している。

東風平小は、116人が池間島、38人が狩俣に民泊する。2日正午前から池間島離島振興総合センターで入村式が行われ、受け入れ

の宮古島観光協会の池間隆守専務があいさつし、「皆さんが来ることを池間島の皆さんも楽しみにしていた。皆さんも楽しんでください。民泊先のおじいちゃん、おばあちゃんたちと仲良くし、心に残る宝物を持って帰ってほしい」と語った。

同校の石川博勝教頭は、「今回は池間島が持っている文化、歴史を学ばせたい。体験はお金に代えることのできない大事なものの。受け

入れの皆さんには、ふれあって育ててほしい」と期待した。民泊を受け入れた民家を代表して与那嶺誓雄さんは、「それぞれの家庭でいい体験し、池間島のいいところを学んでほしい」と語った。

児童代表の松村美優さんは、「人と自然の関わりを学びたい」とあいさつ。児童全員で「相手を思いやり、自然を大切にすること

を宣言した。同日は両地域で島の歴史や自然観察、住民と交流したほか、池間島でオカガニ産卵を観察した。4日までの期間中、サンゴ礁観察や地元の児童たちとの交流などを行う。

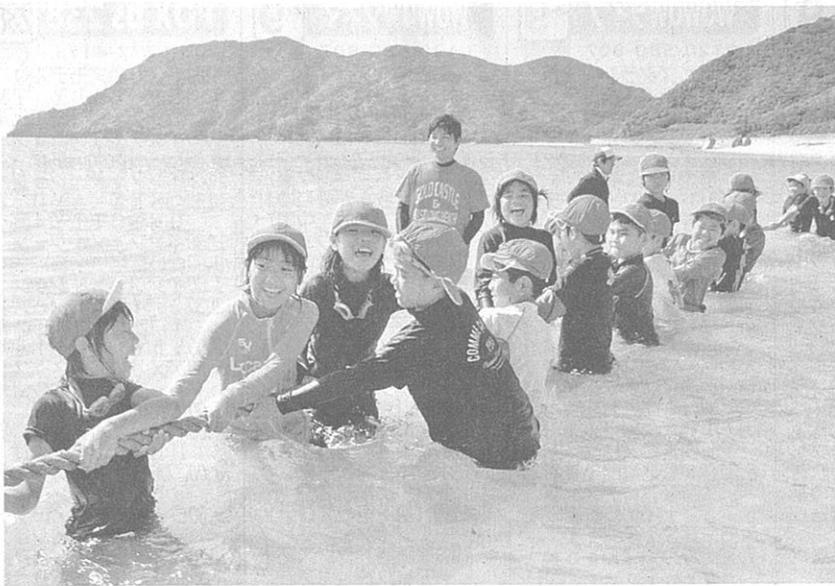
同事業では、今日11日から那覇市立高良小学校が宮古島、糸満市立米須小学校が多良間島を訪れるほか、11月には、うるま市立石川中学校が予定している。

# 今帰仁つ子 渡名喜満喫

## 41人、島の子と交流

【渡名喜】沖縄本島の小学生が離島地域の魅力を実感するため離島で民泊し、住民らと交流する県の「沖縄離島体験交流促進事業」で、今帰仁小学校の5年生41人が、6月25～27日の日程で渡名喜島を訪れた。

### 集落散策・追い込み漁体験



水上綱引きで盛り上がる今帰仁小の子どもたち＝渡名喜村・東浜

国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されている島の集落の散策や追い込み漁体験、ナイトトレッキングでのヤシガニ観察、大正時代から続く伝統の「朝起き会」参加など、初めての体験を堪能した。

東浜のビーチでは渡名喜幼小中学校の生徒と一緒に水泳教室の体験も行った。

渡名喜島の生徒は幼小中学生に3歳児を合わせても全員で35人。今帰仁小の人数に圧倒されていた渡名喜の子どもたちも、水上騎馬戦や綱引きを通じて年齢を問わず楽しく交流した。

近年、少子化が続く渡名喜島。多くの子供たちが浜辺で泳ぐ姿を見た高齢者が「昔を思い出すね」と涙ぐむ場面もあった。

(高橋和淑通信員)

東風平小・狩俣小

# 「ガザミ放流楽しかった」

## 離島体験交流で153人来島

県が実施する沖縄離島体験交流促進事業の一環として八重瀬町の東風平小学校から5年生4クラス153人が2日、2泊3日の日程で来島。宮古島観光協会とNPOいけま福祉支援センター、狩俣マツチャーズが受け入れ窓口となり、池間と狩俣地区で民泊をしている。2日目となる3日は、狩俣小全校児童35人と東風平小5年4組38人との交流会が行われ、海の生物観察などを行った。

東風平小5年4組の児童



海の生物を探す児童たち=3日、平良狩俣のビーチ

たちは民泊先から狩俣小に集まった。狩俣小の野原敏之校長は歓迎のあいさつを述べるとともに「今回は海の生き物の調査などを行う。ぜひ楽しんで、今回の交流

を機会に今後も交流していきましよう」と呼び掛けた。東風平小5年4組担任の大城順子教諭は「宮古島の海と空を見て感動している。海のことをたくさん教えてく

ださい」とあいさつした。両校児童による学校紹介が行われ、それぞれの良い所などを発表した後、海の危険生物について勉強し、小学校近くのビーチへと移動した。

児童は9班に分かれ、干潮で潮だまりがあちこちに現れたビーチで海の生物を探した。色鮮やかで小さな魚を見つけては歓声を上げたり、カニや貝、ナマコなどを手にとって観察したほか、タイワンガザミの稚魚約3000匹の放流も行った。観察終了後、両校の児童たちは「ガザミの放流ができて良かった」とや「交流が楽しかった」、「また会えるのを楽しみにしている」など交流会の感想について発表した。

東風平小の奥浜佳南さんは「カラフルな魚がたくさんいて、特に水色の魚が一番きれいだった。宮古の海はとっても透明で、海の底まできれいにいることができた。とても楽しかったので、機会があればまた来たい」と笑顔を見せた。

# 泥だらけで熱戦

## 渡嘉敷小



### 屋部小5年生も参加

【渡嘉敷】田んぼの運動会「第10回どろんどろんピック」(渡嘉敷村商工観光課主催)が6月29日、渡嘉敷区内の大谷辻原の水田で3年ぶりに開かれた。

## 田んぼの運動会に笑顔

も楽しかった。またやり「たい」と話し、座間味秀

吉君(渡嘉敷小6)は「思ならでの取り組み。良かったより走れた」と満足さを今後アピールしていきたくて語った。運動

企画した村商工観光課の當山清哉さん(34)は、當山清林さん(74)が提供した。(米田英明通信員)

今回は特別企画として渡嘉敷小学校(三浦浩一校長)全児童・教員と県の沖縄離島体験交流促進事業で島を訪れた名護市立屋部小学校(石野榮伸校長)5年生58人と引率教員が参加する合同運動会となった。

田んぼの運動会は初体験という両校の児童らは、混成チームを組み、リレー競走、ソリレース、綱引きなど、泥に足をとられ泥まみれになって競技に熱中、島の自然を素肌で感じた。

渡口龍君(屋部小5)は「足が田んぼにはまり速く走れなかった。とて泥まみれになって田んぼの運動会どろんどろんピックを楽しむ渡嘉敷小、屋部小の児童ら6月29日、渡嘉敷区内の水田

# 伊良部で初の民泊実施

## 高良小144人の児童来島

### 伊良部トীগニで大歓迎

県が実施している沖縄離島体験交流促進事業の一環で、那覇市立高良小学校(知花英子校長)5年生144人が11日、伊良部で2泊3日の民泊をスタートさせた。伊良部小学校(知念智行校長)との触れ合い交流会では、同校の全児童162人が宮古を代表する名曲の一つ「伊良部トীগニ」を三線の伴奏に合わせて合唱し、高良小の児童たちを歓迎した。公立小学校の児童が、伊良部で民泊するのは今回が初めて。



民泊の初日にわくわくする高良小の児童たち=11日、伊良部小体育館

伊良部島での民泊と農業・漁業などの体験を通して交流し、離島の魅力・重要性・特殊性を認識してもらうとともに、沖縄本島と離島の交流促進によって離島地域の活性化を図るのが目的。

宮古島観光協会(豊見山健児会長)が受け入れ、JAおきなわ伊良部支店(川満恵栄支店長)と伊良部漁協(友利義文組合長)が窓口となって全面的に協力した。37軒が民泊を受け入れた。

高良小の子どもたちは、離島の高速旅客船に乗船するのは初めてという人が多かった。左良浜漁港に降り立つと喜んだ表情を見せて

いた。市伊良部中央公民館で行われた入島式で、同協会の

池間隆守専務理事は「高良小の言葉で『いらっしやいませ』は『んみゃーち』といふ。高良小の皆さん、飛機や船に乗ることも体験の一つ。心に残る楽しい旅の宝物を探してください」と激励した。川満支店長は「伊良部島は海と砂浜が美しい島。自然豊かな島。宿泊先では気軽に声を掛けて何でも聞くと

うに」と述べた。高良小の山内昌紀教頭は「熱烈歓迎に感謝でいっぱい。伊良部の方言を二人10単語以上は覚えて持ち帰りたい」と語った。同小5年の天久伶奈さんと花崎優君の2人が、民泊に向け決意の言葉を話した。

夕食は、地元の食材で作った料理約20点を用意した。子どもたちは、マグロの刺身や豚肉のみそ煮、グルクン(タカサゴ)の油揚げなどに舌鼓を打ち「おいしい」と歓声を上げていた。畜産農家の長浜国博さん(42)は「民泊では実家が4人、私が4人受け入れた明日(12日)は、バーベキューでもてなしたい」と話していた。

# J A、漁協が窓口

## 初の民泊受け入れ

### 伊良部 観光で地域に活気を

県の沖縄離島体験交流促進事業で那覇市立高良小学校5年生が11日から伊良部島を訪れている。宮古島観光協会を通してJ Aおきなわ伊良部支店、伊良部漁協が窓口となって農家、漁家が民泊を受け入れ、児童たちは農漁業など島の生活を体験する。伊良部では初めての民泊であり、県内でも農協や漁協が窓口となるケースは初めてだという。農漁業者の所得向上とともに過疎・高齢化の進む地域の活性化につなげようとしている。伊良部での開始により民泊は宮古全域に広がり、修学旅行民泊の受け皿も大きく拡大していく。

## 那覇高良小が来島

今回の民泊では観光協会 参加。事前に池間島を見学の呼びかけにJ Aから農家 するなど受け入れの準備を32件、漁協から漁家5件が進めてきた。同協会ではこ



入村式で受け入れ家族と一緒に昼食を楽しむ高良小の児童(伊良部公民館)

とし秋から高校修学旅行民泊を本格的に受け入れるが窓口は池間島が福祉事業所、狩保が共同購買店と地元の既存団体・事業者を活用。地域の実情に詳しく住民を主体にした民泊の確立には地域に根差した団体が不可欠としている。

高良小と受け入れ民家が対面する入村式が伊良部公民館で行われた。同協会の池間隆守専務理事が「伊良部のお父さん、お母さんがみんなを心待ちにしていた。お世話になる家族と仲良く楽しみ、心に残るすばらしい宝物を持ち帰ってほしい」

とあいさつ。カツオの刺身やブタ肉の味噌煮、グルクンの唐揚げ、モズクなど島の味と一緒に昼食を楽しんだ。女子児童を受け入れる佐和田の大地悦子さんは「2〜3日前から眠れないほど

## 互いの良い所紹介

### 伊良部小 高良小児童と交流

沖縄離島体験交流促進事業で伊良部島を訪れている那覇市立高良小学校5年生は11日、地元の市立伊良部小学校と交流会を行った。

楽しみにしていた。同じ年頃の孫がおり、初めてなので先ずやってみようと思った。ホテルや下地島を見せ、夜はエビ獲りをさせたい」と笑顔で歓迎した。

また国仲の長濱国博さんは「民泊をやっている他地域は活気が出ていたのでやってみたかった。過疎化で若者が少なく、子どもが島に入ってくるだけで元気がもらえる。今回をきっかけに関心が高まり、受け入れも増えていくと思う」と期待をかけている。

J A伊良部支店の川満恵栄支店長は「伊良部も60代

互いの学校の良いところを工夫しながら紹介。ゲームを楽しみながら親睦を深めた。

交流会は午後2時過ぎから伊良部小体育館で行われた。同校を代表して児童会長の国吉華優さんが「ようこそ。伊良部小は他校と比べて人数は少ないがみんな優しく仲良し。1番の自慢は虫歯が少ないこと。伊良部ではピンクの玄米がおいしいのでぜひ一度食べてほしい」と歓迎。全校児童で校歌と「伊良部とつがに」を合唱した。

続いて同校の5年生が1人ひとりの伊良部島について紹介。「平成17年に伊良部

以上の夫婦2人世帯が多く、ほとんどがサトウキビ農家。課題もあるが、観光協会と子ども部屋が余っており、であり、民泊で所得を向上一緒に取り組んでいきたい。民泊を希望する農家は多い。してほしい。初めてなので」と話した。

町が合併して宮古島市になった。島には伊良部、佐良浜の2地区があり、それぞれ農業、漁業が盛ん」と述べ、渡口の浜や工事中の伊良部大橋、サンバの渡りについて説明した。また通り池の「継子伝説」を読み聞かせ。1年生のあらしるひなさんが元気よく「わたしのだいすきないらぶじま」を朗読した。

高良小はクイズ形式で自分たちの学校について紹介。わかりやすい説明で学校の良いところをアピールしていた。

2012年7月14日(土)

# 渡嘉敷島の自然満喫

## 屋部小5年生58人民泊

【渡嘉敷】県が実施する「沖縄離島体験交流促進事業」が昨年度に続き実施され、渡嘉敷村に名



渡嘉敷小（右側3人）の児童と楽しく交流する屋部小5年生。6月27日、渡嘉敷村中央公民館

護市立屋部小学校5年生58人が6月27、29日に来島、区内で民泊をしながら豊かな島の自然、生活を体験した。

同村商工観光課が企画運営、受け入れを行った。初日は村中央公民館で吉川嘉勝さん(73)による平和学習、夕食会を兼ねた渡嘉敷小学校児童との交流交歓会があった。慶良間太鼓同志会（新垣徹会長）の太鼓演奏などもあ

り、島の文化に触れた。2日目は、地元漁師の指導で島の伝統漁法「追い込み漁」に初めて挑戦。イラブチャーなどを捕り、民泊先で料理され夕食に出された。最終日は渡嘉敷の水田で開かれた島の行事「ドロンピック」に参加、島民との交流を深めた。渡口あおいさん(10)は「追い込み漁が楽しかった」、小山瑠那さん(10)は「島の人たちとたくさん友達になれて良かった」と笑顔で話した。(米田英明通信員)

# 民泊の受け入れ整備進む

石垣島田舎体験プロジェクト実行委

## 県事業で大里南小が民泊

### 来年まで9校2000人余を予定

農家などの民家に宿泊しながら生活の知恵を学ぶ新しい観光形態、「民泊」の受け皿づくりが、石垣島田舎体験プロジェクト実行委員会（成底正好委員長）で進んでいる。11日からは県の2012年度沖縄離島体験交流促進事業で訪れた南城市の大里南小学校の児童139人の受け入れを行った。実行委は来年にかけ9校2183人の民泊を予定。成底委員長は「今回の事業を通して課題を洗い出し、民泊の質の向上など受け皿づくりを進めていきたい」と話している。

実行委によると、同一35軒が登録。独自に誘プロジェクトには現在一致活動に取り組んでお

り、県事業のほか8校の予約を取り付けた。問い合わせや申し込みも多いが、すべてに対応するには受け入れ態勢が十分ではなく、実行委では民泊先の質の向上を図りながら民泊先を100軒まで増やしていく計画だ。

副委員長は「生活の中から生きる力や知恵を学んで下さい」と呼びかけ、児童を代表して

玉城海斗さんは「民泊先では進んでお手伝いをしたい。いろんなことを体験して学びたい」と話した。

2回目の受け入れとなる宇根底キヨ子さん(60)＝宮良＝は「子どもたちが大きくなって家にいないので、久しぶりに親になった気持ち。楽しんでしようがない」と笑顔で接し、4人の女子児童も

「みんな楽しく過ごしたい」と声を弾ませた。



どんな民泊体験になるか興味津々の大里南小学校の児童ら＝12日午後2時すぎ、宮良のヤラブ並木

今回の県事業は民家とホテルでそれぞれ1泊する日程。16軒の民泊先は、白間にわたり、4～5人を宿泊させ、農作業などそれぞれの日常生活を体験させた。

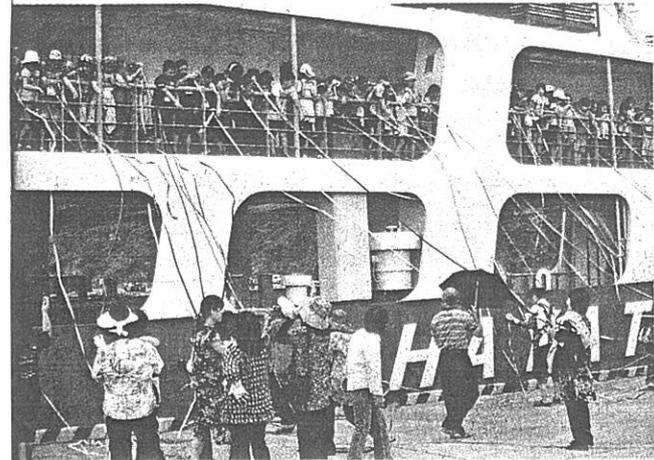
12日午後2時から宮良のヤラブ並木で行われた民泊農家迎え式で、実行委の砂川拓也

# 伊良部で初の民泊

県の離島体験交流促進事業 高良小144人、自然満喫

【伊良部島⇨宮古島】県の離島体験交流促進事業の一環として、那覇市立高良小学校の5年生144人が、11日から13日まで宮古島市の伊良部島を訪れた。児童らは農家や漁業者の家に泊まり、伊良部島の自然や文化を学んだ。伊良部島での民泊事業は始めて。

民泊で世話になった受け入れ先の住民に感謝を込めてテープを投げる高良小の児童ら＝13日、宮古島市伊良部



高良小の児童は、伊良部小学校の児童と交流会をしたり、伊良部島の美しい海でシュノーケリングをしたりして楽しんだ。滞在中は天候にも恵まれ、日焼けした顔に笑みを浮かべた。

最終日の13日、フェリーに乗る際に、児童らは世話になった民泊先の住民と別れを惜しみながら、テープを投げて島を離れた。

いずれも初めて伊良部島に来たという高江洲祐也君(10)、新垣優之介君

の3人は「サンゴやクマノミを見られて楽しかった。(民泊は)ちよつと緊張したけど、たくさん話げできた。また伊良部島に来たい」と笑顔を見せた。

伊良部島ではことし秋から、高校修学旅行の民泊事業を始める。受け入れ民家はこれまで、池間島で民泊について学ぶなど勉強を重ねてきた。男子4人を泊めた久高キヨさん(58)は「疲れたけど、張り合いがあつて楽しかった。孫を育てる延長のような感じ。今後民泊を受け入れていきたい」と話した。

泥まみれになりながら田んぼで遊ぶ児童12日、石垣市川平



# 泥んこ遊び 楽しいね

## 川平小、大里南小が交流 石垣市

【石垣】石垣市の川平小学校の児童は12日、離島体験で石垣島を訪問していた南城市の大里南小学校5年生の児童と、田んぼで「ドロンピックク」を行った。児童らは綱引きやかけっこで泥だらけになりながら、交流を深めた。

ドロンピックの競技は田んぼに立てた旗を競争して取るビーチフラッグや綱引きなど。児童は泥に足を取られながらも元気よく駆け回った。自由時間には、泥団子を投げ合う泥合戦も。会場は川平小が実習で使っている田んぼ。

# 友達できたよ

## 座間味小と天底小交流

座間味



【座間味】今帰仁村立天底小学校(座間味靖校)の5年生の児童31人が4日から6日までの3日間、座間味島で宿泊研修を実施した。写真。

座間味港に到着した児童は村役場職員や宿泊施設の関係者らと共に入村式に出席。その後、座間味小学校体育館に移動し、座間味小5、6年の児童17人と交流。両校の代表がそれぞれの村の紹介と学校を紹介し、ゲームを楽しんだ。

天底小の児童は自然を利用した海洋体験学習や平和学習に参加。島内の体験をまとめた新聞作りも行われ、村民を招いて研修の成果を発表した。(宮里芳和通信員)

